

---

# 天碧の帝国

ねこたん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

天碧の帝国

### 【Zコード】

Z5526F

### 【作者名】

ねこたん

### 【あらすじ】

血塗られた歴史を持つ大帝国、サラザール諸国連合帝国。奴隸産業で肥大した商会連合や隣国との絶えぬ対立によつて帝国は間違つた強大さを保持していた。帝国の王位継承権の1割を保持したとある少年は、この広大な帝国に挑む。

## 1・つきのうた（前書き）

諦めない事　だとかの偉人も呟いていた。

## 1・つきのうた

いつからだらうか？私が生きることを諦めてしまったのは…

物心ついた頃から親というものを知らず、周囲の人間はひたすら私を退けた。

だけど、生きることを諦めたからといって、死のうとは思わなかつた。それだけは、なぜかいけない気がしてか・・それとも勇気がなかつたのか。

\* \* \*

木とレンガで出来た家々、石で出来た道…月明かりに淡く照らされ薄青色に染まる。近くにある海もまた月に照らされて薄黄色に輝く。街は寝静まりひつそりとした静けさにのまれてている。唯一の声といえば野良猫のかすかな鳴き声や引いてはやつてくる海の波の音、そして遠くに聞こえる鳥の鳴き声だけだろうか。

石造りの道には線路が引かれていた。それは一つとして例外はなく、すべての石造りの道に引かれている。町全体をまるで蜘蛛の巣のようにいたるところに張り巡らされ、そして隣の町へそれからまた隣の街へと繋がっていた。古くもなく、しかし最近引かれたばかりでもなくその線路は異様なふいんきを醸し出していた。不気味ともいえる。ただ、ひたすら続く線路は深夜だからか1両も線路を走つてはいなかつた。それがまた、寂しさと不気味な空氣を増す原因となつているのもおかた間違いでもないだろう。

この街のある通りの一角、少女は誰も居ない路地裏でうずくまつっていた。月明かりも入つて来れないくらい密集した建造物の隙間に体を預けて寝息を立てていた。野良猫たちや「ミミ箱をあさるネズミ達が彼女の足の下をすり抜けていくが、それすら彼女にとつてはどうでもよかつた。月明かりが静かに街を照らすがその光は彼女には届かない。暗すぎる夜に窓からの木漏れ日も、該当のガスランプすらも灯つては居なかつた。明りといえるものは月の明りか、無数に輝くほのかな星ぐらいだらう。

「ゴオー

少し遠くで列車の走る音がした。今まで1両の列車も走つていなかつたはずの線路が音を上げる。ただし、普通の列車よりも少し重そな音であった。列車が動く音とともにレールが酷く軋む音を立てる。車輪は重々しく回転し、小石をあたりに撒き散らすのがかすかだが聞こえる。少し音が近づいたと思つとレールが悲鳴を上げ急に車輪がとまる。

突如、悲鳴が上がつた。

静かだつた街は一瞬にしてあたりを硬直させるような冷たい緊張した空気が漂い、かん高い悲鳴があたりをこだまする。どんな人なんか、男なのか女なのか分からぬ。しかし、誰かが今現実な恐怖を感じていることは容易に理解できる。声は悲鳴から悲痛に変わり、抵抗する事も無く、その声はただ恐怖を出しているのでしかなかつた。

しかしその悲鳴も少しづつ小さくなり、重い扉が閉まるよつた音

とともに消えてなくなつた。また重い列車が車輪を回し始めると、重々しい音を立てながら街を横切つていつた。酷く軋む線路の音とともに、列車は遠くに去つていたのだろうか？

月明かりは未だに少女を照らすことにはなかつた。少女はうずくまつたままだつた。あたりが静寂にもどり、さきほど緊張した空気はどこか安堵の空氣に変わつていた。路地裏を歩く猫も、ネズミも何の変わりもなく過している。少女もまた同じで、体勢を変えることなくうずくまつていた。

ただ、先ほどとは明らかに違つた。少女は震えていた。それが無意識ゆえかどうかはまったく分からぬが少女は震えていた。

まるで、何かに恐怖するよつて。

狭い路地裏に光は入らず、月は未だに少女を照らすことにはなかつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5526f/>

---

天碧の帝国

2010年10月12日05時44分発行